



2020年2月8日(土) チーム神於山 活動報告

2020.2.11
シャープ社友会
チーム神於山
真砂 記

■活動日：2020年2月8日(土) 10:00~15:00

■参加者：チーム神於山 9名

■活動内容

- ・今回は、前回に引き続き、上部植栽地の間伐をメインに、フクロウの営巣確認、トレイルカメラのデータ確認と調整、ミカンの施肥、余裕があれば作業道の補修を行う予定でスタートしました。
- ・フクロウは、前回に比べて巣箱に敷いた藁に変化が見られましたから、下見が続いている様ですが、トレイルカメラには、撮影データが全く無く、出入りは確認出来ませんでした。
- ・トレイルカメラのセットアップ手順のチェックを含め、次回に期待したいと思います。
- ・「余裕があれば」の作業道の補修は、山側は木の板で、谷側は畔波板で砂留する方向で、必要な材料を確認しました。次回テスト工事を行い、結果が良ければ本格的に取り組みます。
- ・収穫は、基地から沢筋を登り、上部のクリの木広場に向かう階段が修復できたことと、一昨年の台風で倒れ、ヒノキに枝掛りしていた自然木のヤマザクラを伐倒出来たことです。
- ・昼は、金井さんの奥さんからの差し入れの善哉に、香遠さん持参のお餅を焼いて入れ、美味しくいただきました。金井さん・香遠さん、ありがとうございました。

■次回以降の活動テーマ

- ・フクロウの営巣次第で変わりますが、間伐と作業道の補修がメインになる事は間違いなさそうです。
- ・別途ご案内しますので、奮ってご参加ください。

■午前の部：ミカンの施肥・階段の修復・間伐



石灰は、先ずバケツに入れて。



撒き方は、原さんがレクチャー。



森さんがサラサラ。



小林さんもサラサラ。

- ・今回は、土壌を弱酸性に保つために、ミカンの木に有機石灰を施しました。
- ・石灰は、土壌改良効果だけでなく、病害抵抗性の向上、葉面・地表面のPH上昇による細菌増殖抑制、細胞壁の強化などの効果があり、アルカリ分の違いで、苦土石灰、消石灰、生石灰、有機石灰などがあります。
- ・今回施肥したのは、牡蠣やホタテの貝殻の石灰などによる有機石灰で、アルカリ成分は50%前後。
他の石灰に比べ緩やかに効果を発揮し、土が柔らかくなるという効果もあるようです。
- ・リーダーは原さんで、小林さんと森さんがアシストしました。
根の張り具合に合わせ、根元から30~50cm離して撒くのがポイントとか。



■階段の修復 横木と杭は、間伐材を利用しています。



以前作った階段の掘り出しと杭作り。
担当は、上から孝橋さん、岡森さん、金井さんです



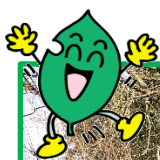
腐食した横木を取り換え、杭で固定して修復完了。

■午前の部が終って、ミカンの植栽地で集合写真 2 枚。(真砂写) お疲れ様でした。

- ・ミカンの植栽地は、記念樹ゾーンと暗渠ゾーンの 2 ヲ所にあり、2018 年 3 月 17 日に、記念樹ゾーンには、「伊予甘」2 本、「甘夏」2 本、「デコボン」2 本、「田口」3 本、計 4 種 9 本を、又、暗渠ゾーンには、「ゆら」を 3 本、合計 5 種 12 本の苗を植えています。
- ・植えた時は、40 cm 足らずでしたが、皆スクスク育っています。
- ・中でも驚いたのは伊予甘で、今は 170 cm 近くにまで成長しています。
(写真右)



170 cm 近くまで成長した「伊予甘」を挟んで一枚。



枝張りが一番しっかりしている「ゆら」を前に一枚

- ・しっかり枝を広げ、高さも 150 cm 近く伸びているのは、暗渠ゾーンの「ゆら」です。(写真左)
- ・これまで苗木の生育を促進する為、花芽や花は摘み取ってきましたが、この「ゆら」は、3 本とも元気ですから、今年は花が咲いても摘まず、実を生らせてみようかという話が出ています。
- ・リーダーの原さんの話では、5 種類のミカンをそれぞれ複数本植えたのは、歩留まりを考えてのことだったそうですが、嬉しいことに今のところ 12 本全てが順調に育っています。

■午後の部：午前中の間伐材の処理と、ヒノキに枝掛りしているヤマザクラの伐倒処理



- ・午後は、午前中に間伐した木の処理と、一昨年の台風で倒れ、ヒノキの疎林の一本に枝掛りしていたヤマザクラの伐倒に取り組みました。
- ・ヤマザクラについては、前回の活動日に、先ずヤマザクラを根元で伐り、枝が外れなければヒノキも伐倒すると決めていましたが、いざとなると喧々囂々、いろんな意見が飛び交いました。

- ・その結果、ヤマザクラの根元部分の周囲を溝状に切り、枯死させることにし、チェーンソーで切り始めた所、既に中央部が枯死しかけていることが判りました。
- ・そこで、急遽前回決めた通り伐倒することにし、ヤマザクラを根元で切り落としましたが、ヤマザクラの二股に分かれた枝がヒノキを挟んだ形になっていて外れず、結局ヒノキも伐り倒す結果になりました。
- ・名物のヒノキの疎林の一本を伐ったのは残念ですが、危険な状況は回避できたのでホッとしました。午後も活動頂いた7名の皆さん、お疲れ様でした。



ホッと一息の皆さん。これで一先ず安心です。



安全のため、現場はトラロープで閉めました。